

## 県立美術館

## 事業名：企画展「増村益城」展

評価項目	7 展示 ②企画展示 8 教育普及事業 ①体験学習・ワークショップ・イベント・観察会・講座・連携事業 9 情報の発信
項目概要	使命に即した展示がなされ、来館者にとっても好評かどうか。また、館外に向けての情報発信が効果的にできているかどうか。

## ① 展示の方針と実施計画

## A. 使命に即した展示として適切な企画であるか

目標・指標	使命に沿っている
実績・内容	出生地は熊本であるが、晩年の15年間は柏市において制作活動を行っていた。そのため、当館の使命である千葉県出身及びゆかりの作家の作品を収集・展示するという館の使命には合致すると考えている。増村の展覧会は、熊本県立美術館や東京国立近代美術館等で開催しているが、県内の美術館での開催は初めてである。

## B. 増村の作品や業績が理解できる内容となっているか

目標・指標	わかりやすい内容
実績・内容	漆作品ということで、内容的には絵画作品に較べると難しいかもしれないが、制作時期により初期・中期・後期と3つの時期に分け、比較的平易な解説に務めた。また、ワークシートに用語解説を入れるなど一般の人にわかりやすくする工夫をした。

段階評価	4.0
所見 指摘事項	○県立美術館としての確である。品格・美術性、特に質量ともに秀逸であった。 ○県内で制作活動していた芸術家の作品を収集、紹介する展示で県立館の使命に合致している。展示品に館蔵品が少なく今後の収集に期待したい。
対応	○当館の企画展で取り上げる作家は、一般的な知名度は決して高くないが、作家1人1人は非常に素晴らしいものを持っている。今後も、館の使命に基づき、千葉県ゆかりの作家を取り上げ、県民の皆様に紹介していきたい。

## ② 様々な来館者に対応した展示工夫

## A. 作品は見やすく展示されているか

目標・指標	作品の高さや照明が見やすい
実績・内容	くくり付けの展示ケース内では作品が遠く見にくいので、ごく一部の作品以外は、移動式の展示ケースを設置し、四方から作品を鑑賞できるようにした。また、照明も作品に合わせ、真上から照らすようにして、来館者が見やすい照明を心がけた。

## B. 展示パネル、キャプション等がわかりやすい内容であるか

目標・指標	読みやすくわかりやすい
実績・内容	作品名が難しいので、必ずルビを振るようにした。また、奥多摩の秋川渓谷の水の流れを見て作った作品を展示したが、作品に関心を持ってもらうために、そこで録音した水流音をバックに流した。

## C. 動線はわかりやすいか

目標・指標	来館者が交錯しない
実績・内容	矢印等の案内立て札を設置し、来館者が交錯しないよう配慮した。

## D. パンフレットや解説書などの内容は充実し、わかりやすいか

目標・指標	来館者が見やすい内容
実績・内容	チラシの他、作品一覧を配布し、作品をわかりやすくした。また、ワークシートを配布し、用語等の理解に努めた。展示図録には全作品を掲載し、作品の変遷がわかるようにした。

段階評価	4.0
所見 指摘事項	○今回の展示では、作者の年代ごとの作品の配置、特に照明や展示品の高さに工夫がみられ、感心した。動線もうまく確保されていた。 ○照明には工夫がみられた。漆芸品の展示では、照明に苦心するが、本展示では、真上からの照明や、各作品の特徴を生かした照明方法を導入しこれを解決した。さらに、行灯型ケースを使用することにより、他照明の映り込みをなくし、四方からの鑑賞を可能にするなど、反射と影を極力除き展示効果を揚げていた。作品面にあたる200ルクスの展示照明を、室内を暗くすることによって、さらに明るく感じさせるなどの工夫もあった。 ○工芸品の展示ではその材質、制作工程等から難読な品名がつくことがあるので、作品に付されたルビは効果的だった。ルビは作品を知る最初であり鑑賞に飽きを抱かせない手段でもある。 ○印刷物(ポスター、チラシ、図録)は統一デザインで分かり易い。図録への展示全作品収録は記録性も高い。(会期中の完売)。 ○ワークシートについてもルビを付し、身近な漆製品から増村作品へと導入させようとするが、ヒント・内容に少し難しさを感じた。
対応	○今回の展覧会では、漆芸作品という作品の特殊性から、いつも以上に作品の照明・見せ方に気をつけた。その結果、あるうつわは、あたかも、うつわいっばいに水が注がれているような見え方になり、来館者からの評価も好評だった。他照明の映り込みを少なくし、その分、室内を暗くしたので、高齢者の方には、少し歩きにくい所があったかも知れないが、わかりやすい動線にしたので、時代による作品の移り変わりが良くわかっていただけたのではないだろうか。この経験をもとに、今後も見せ方について、研鑽を積んでいきたい。 ○印刷物のデザインを統一したことで、わかりやすいというご意見は、何人もの方からいただいた。ワークシートについては、職員が見ても興味をそそる内容であったが、ご指摘のあったように難しい面もあったので、今後はさらにわかりやすいワークシート作りを考えていきたい。

## ③ 実施状況

## A. 予算に対して内容が充実しているか

目標・指標	予算が少ない中での取り組み
実績・内容	予算は昨年度にも増して厳しい状況だが、資料を借用する他館の協力もあり、一か所から多くの作品を借りるなどして、運送コストの削減に努めた。

重点事業評価シート(評価結果と対応)

B. 入場者数、入場料収入はどうか

目標・指標	5,000人以上の入場者を目指す
実績・内容	入場者は3,813名、入場料収入は381,850円で、それぞれ目標数値の76%、49%であった。通常、工芸分野の展覧会入場者は少ない傾向があるが、予算上、有料広報がほとんどできないことの影響も考えられる。入場料収入については、65歳以上、中学生以下などの無料入場者の割合が77%に達したことが影響している。

C. 入場者の満足度はどうか

目標・指標	満足が80%以上
実績・内容	展覧会(大変満足+満足):95% 美術講演会(同上):82% ミュージアムコンサート(同上):100% (いずれも無回答を除く。残りは「どちらともいえない」回答) ○講演会の満足度が低いのは、直接的にはポスター・チラシ等の広報後にやむをえない事情で講師が変更になったこと(ホームページ・メールマガジン等で広報済)、間接的には講演会の実施日に図録が完売していたことに対する不満が影響している。
段階評価	4.0
所見 指摘事項	○ミュージアムコンサートの満足度が高いのはコンサート内容が良いこと、入場が抽選であり、参加性が非常に高いことにある。これらを踏まえると、満足度は高くなる。
対応	○アンケート結果でも来館者の満足度は95%と高かった。また、ミュージアムコンサートは非常に評判が良く、毎回楽しみにしている来館者も多い。

④ 関連事業及び広報活動

A. 関連事業の内容は親しみやすいか

目標・指標	うまく関連性をもっているか
実績・内容	ミュージアムコンサートについては、弦楽四重奏としたが、増村の出身地である熊本にちなんだ曲目、漆芸にちなみ日本の楽曲などをプログラムに加えた。 美術講演会については、増村益城の人となりや芸術について講演を行ったが、今回は、初めて講堂ではなく、展示室を使用した。それにより、さらに増村益城や増村の作品が身近なものになった。

B. ポスター・チラシ等のデザインは目を惹き、メッセージ性がある仕様となっているか

目標・指標	一般の方が手にとって見る
実績・内容	ポスターやチラシ・看板には朱色の作品を大きく出して見た。これまで以上に、インパクトのあるものになったと考えている。

C. タイムリーな情報提供を計画性を持って適切に行なっているか

目標・指標	その時期にあわせた広報活動
実績・内容	情報発信時期については、媒体ごとに刊行日・発表日等を考慮した。

D. 新たな広報媒体や広報手段の開発を積極的に行なっているか

目標・指標	無料広報先や広報媒体の開拓
実績・内容	有料広告を利用できないので、無料媒体については考えうる限りの情報紙誌、インターネットメディア等に情報を流すとともに、館ホームページの充実や見易さを追及した。

段階評価	3.5
所見 指摘事項	○展示室での講演、展示解説は他の鑑賞者への配慮が必要だが、参加者は講演と展示作品の同一により、増村作品への関心が深まったことであろう。これも動線計画がよかったから実施できたものと思われる。 ○展覧会の連載記事は広報にとって効果的である。今後もマスコミとの連携を継続してほしい。 ○広報は、この時期に県内で人が動く要因について県、市観光課、商店会からの情報を得て分析することも必要である。 ○JR/モノレール最寄駅 タウン誌、ホテル、タクシー、京成上野駅、成田羽田両空港、デパート(美術品売場)コンビニなどもチラシ配架の候補として、その方法を関係者と協議したら如何か。 ○コンサート参加者への手渡し配布も必要。
対応	○講演会は当初、講堂で実施する予定だったが、講演者が病気で来館できなくなったため、展覧会担当者が展示室で実施した。この展示室は、作品数が少なく、増村益城の生涯をビデオ上映している部屋だったので、比較的容易に実施することができた。 ○展覧会の連載記事については、記事が掲載されることによって県民の方の関心も高まるので、今後も積極的に行っていきたい。 ○広報活動については、駅やタウン誌、周辺ホテル等については、従来から実施しているが、空港や京成上野駅については、実施していない。再開館後の活動を見据えて、関係機関と協議していきたい。

総合評価	3.8	部分的に検討する必要がある
評価内容	○照明方法、展示ケースと配置、資料保全のためのトレイ、展示台の高さ等、資料保全と資料の特性に配慮された展示です。中高年、玄人好みの展示であるが、解説、印刷物には、「分かり易さ」についての工夫がみられる。今後もこの様なことに配慮された展示を期待する。 ○広報について未だ開拓の余地が有るようにおもわれる。 ○県内で制作活動した作家の紹介、作品収集は館の使命として今後も継続が必要である。 ○館へのアクセスについて、JR・モノレール千葉港からのバス、千葉駅からのバス(ワンコインバス含)のバス停を美術館近くに設置できないか。現在、警察署前ではやや不便。美術館、ポートタワーを経由し折返バスプール(巡回)のバスがあると人の流れが変わるのではないか。	
対応	○工芸作品の展示は絵画作品に比べ、工夫次第で見せ方が随分変わるではないかと思う。そのため、今回の展覧会で学んだノウハウを、試行錯誤しながらも今後の展覧会にいかしていきたい。 ○広報については、再度、無料媒体の確認・見直しを図るとともに、当館にとって、どのような方法が一番有効かを検証していきたい。また、多少でも有料の媒体が使えるよう、今後の予算要求も含めて検討していきたい。 ○アクセスの問題については、来館者からの不満も少なくない。バスのルートについては、再開館までまだいづらか時間があるので、引き続き、関係機関と協議していきたい。	

## 県立中央博物館(大多喜城分館)

## 事業名：企画展「上総の仏教美術～夷隅・長生～」

評価項目	7 展示②企画展示(入場料の変更が必要な展示)「上総の仏教美術～夷隅・長生～」
項目概要	7 展示 ②企画展示/8 教育普及事業 ①体験学習・ワークショップ・イベント・観察会・講座・連携事業等/9 情報の発信

## ① 展示の方針

## A. 使命に基づいた企画

目標・指標	地域文化の再発見につながる展示
実績・内容	普段見る機会の少ない指定文化財の仏像・仏具等を多く展示・紹介した。

## B. メッセージ性のある企画展示

目標・指標	○夷隅・長生地域の中世・近世の人々の信仰の一端がわかる展示 ○紹介した寺院等に行ってみたくなる展示となること
実績・内容	○夷隅・長生地域が歴史上よく知られた高僧とのかかわりがあることをわかりやすく紹介。 ○仏像の特徴から人々の願いがわかるよう展示、紹介。 ○寺院の位置などがわかるパネルを設けた。

段階評価	4.0
所見 指摘事項	○大変貴重な文化財が存在していることが判った。 ○地域文化資源を活用した企画で、入館者を地域に循環させる試みも評価できる。今後、更なる文化資源の発掘を望みたい。
対応	○平成 24 年度に引き続き、地域文化の掘起こしとして、平成 25 年度には「上総の仏教美術Ⅱ～長生・山武～」を開催する。 ○平成 25 年度は、対象地域の寺院等をより綿密に調査し、特色ある文化財が展示紹介できるよう努めたい。また、対象地域にある文化団体とも連携し、地域住民も巻き込んだ展覧会としたい。

## ② 様々な来館者を想定した展示の工夫

## A. 展示手法の工夫

目標・指標	○仏像は来館者がやや見上げるような位置とする。 ○マルチケースを用いたり、ライティングを工夫して資料を効果的に見せる。 ○限られた展示スペースを有効に活用した展示を行う。 ○パネルやキャプションを見やすく統一する。
実績・内容	○来館者の目の高さや像の位置に留意。 ○照明器具や演示具で美術工芸品の美しさを演出。 ○地震への備えや褪色にも配慮。 ○エントランスホールに導入展示を行った。 ○像の間の距離を取り、じっくり鑑賞できるようにした。 ○キャプションは見やすい大きさの文字で統一、仏教用語など読みづらい文字にはルビを施した。

## B. 導線はわかりやすいか

目標・指標	○わかりやすい順路となるように工夫する。
実績・内容	○固定ケースに沿って展示構成し、わかりやすい導線とした。

## C. 展示解説は適宜実施されているか

目標・指標	○土日祝日に企画展定時解説(ミュージアムトーク)の実施 ○要望に応じた団体向け解説。
実績・内容	○希望団体への展示解説は 22 団体 710 人。 ○定時解説(11:30・13:30)は 15 回 415 人。 ○合計 1125 名に展示解説を行った。

## D. 展示解説書は作成したか

目標・指標	○解りやすい構成と内容の展示解説書を作成する。
実績・内容	○各コーナーの要点や代表的な資料の写真、展示資料一覧を掲載し、見学後振りかえることのできるものとした。 ○入館者には受付で展示解説書を配付した。また、展示会場にも解説書を置き、多くの人に本展を紹介してもらうようにした。

段階評価	3.5
所見 指摘事項	○職員が協働した手作りの工夫が随所に見られた。展示解説も入場者の要望に合わせて職員総出で行われるなど、警備員や受付職員を含めて入場者へのホスピタリティが高い。 ○大多喜周辺の歴史的背景をもう少し詳しく解説いただくと良かった。 ○キャプションの大きさは適切な大きさであった。
対応	○定時(期)的な展示解説は、今後も土日祝日に実施する予定である。また、団体等への解説は、事前予約をお願いすることによって、曜日に係わらず行えるよう人員配置を調整したい。 ○展示解説等の実施に際しては、当館の持ち味を生かした親切でわかりやすい来館者サービスを心がけ、展示品をとおして地域の歴史の一端がわかるように努めたい。

## ③ 入場者状況

## A. 入場者数はどうか

目標・指標	目標 1 万 4 千人(平成 23 年度 13,820 人/平成 22 年度 11,729 人)
実績・内容	14,260 人(目標設定数値の 101.9%であり、前年度比 440 人の増であった)

## B. 入場料収入はどうか

目標・指標	目標 160 万円(平成 23 年度 1,632,370 円/平成 22 年度 1,058,070 円)
実績・内容	1,314,140 円(目標設定数値の 82.1%であり、前年度比 318,230 円の減であった)

重点事業評価シート(評価結果と対応)

C. アンケート等を実施し、実態の把握を行っているか

目標・指標	○今後の参考となる項目を設けたアンケートを実施し、回収率を上げる工夫もする。
実績・内容	○アンケート記入場所を受付前とし、来館者の入館時と退館時にアンケートの記入を促した。アンケート総数は 418 枚で、昨年(84 枚)の約 5 倍の回収率となった。 ○会期前半、企画展を「知らなかった」と回答した来館者が多かったため、紅葉時期とも重なる 11 月半ばに再度いすみ市の広報誌に掲載依頼したり、大多喜町観光協会のブログに情報をアップしてもらった。養老溪谷の旅館や道の駅にもチラシや解説書を配布した。 ○文字サイズの改善指摘があり、一部キャプションの文字を大きくした。

D. 入場者の満足度はどうか

目標・指標	アンケートで「非常に満足」～「ふつう」が 8 割以上
実績・内容	満足度は非常に満足(16%) 満足(53%) ふつう(29%) 不満(2%)非常に不満(0%)であった。不満に思った方は 2%以下、ふつう以上と判断された方は 98%であった。

段階評価	4.0
所見 指摘事項	○目標値を達成できたことは結構な事であるが、入場料を徴収できる年齢層の入場者を増やす努力が必要。 ○東日本大震災以降、集客施設の入場者減が続いている中、目標を上回る入場者数があったことは評価できる。地元入場者が少ない点については、地域自治体、接続する教育機関、地域ボランティアとの日常的な協働の再構築を望みたい。 ○展示に対して一定の配慮がなされているのが、理解できる。 ○アンケートの記入と回収は心がけて声かけや手間を惜しまずに努力をしなければ数字を上げることができないので、今年度は評価できる。 ○7割近くの入場者が満足しているのであれば、もう少し努力をし、8割以上を目指して欲しい。
対応	○有料入館者の取り込みについては、幅広い世代に興味関心が持てる関連イベントを企画することによって対処したい。 ○地元の入場者が少ないのは盲点であった。教育委員会、社会教育施設、町ボランティア、観光施設、NPO などの日常的なネットワークを生かし、企画展の PR と、それぞれの団体の事業等に当館企画展を活用してもらおう働きかけを行いたい。 ○アンケートについては、引き続き設置場所や声かけなどに配慮し、高い回収率が維持できるよう心がけたい。 ○来館者満足度のさらなる向上については、ビジュアルに訴えるパネル等の設置を検討したい。

④ 博物館の普及および企画展示の広報活動

A. 展示を通じた教育普及活動

目標・指標	企画展に関わる講演会、博物館セミナーなどを実施する。
実績・内容	会期中に講演会、博物館セミナーを実施。房総の仏教や展示した文化財の理解を図った。

B. チラシ・ポスターは眼を引きメッセージ性があるか

目標・指標	担当者だけでなく、全職員で検討し、効果的なものを作成する。
実績・内容	本展の目玉となる仏像を前面に、「指定文化財を一堂に公開」を強調するレイアウトにした。

C. タイムリーな情報提供(計画性を持って適切な部署に行っているか)

目標・指標	配布計画を策定し、計画的な広報を行う。
実績・内容	○ポスター、チラシの配布時期が遅れ、企画展前半の来館者数に影響した。 ○昨年度の実績を踏まえ、配布計画に従って広報した。 ○本年度アンケート結果や紅葉時期を踏まえ、11 月半ばに再度インフォメーションした。

D. マスメディア等を活用した広範囲な広報と対象地域を絞ったきめ細かな広報を積極的に行っているか。

目標・指標	○マスメディア、雑誌、教育機関の広報誌、鉄道等に事前に情報を提供し、チラシやポスターを送付する。 ○大多喜町には戸別にチラシ回覧(又は配付)し、夷隅・長生地域の主要施設にはポスター・チラシを配布、自治体広報誌等にも広報を依頼する。 ○本館のメールマガジンにも情報を提供し、連携して広報を行う。
実績・内容	○後援の鉄道会社の主要駅にポスターを掲示、チラシを設置。 ○取材記事の掲載(千葉日報、内容紹介(朝日新聞)、「チーバクんの Q」記事掲載(朝日新聞)) ○県民だより、「県教委ニュース」、夢気球、本館メールマガジンなどに記事掲載。 ○観光雑誌等に記事を掲載 ○対象地域にポスター、チラシを配布。 ○大多喜町全戸に情報提供。夷隅長生地域は主要施設にチラシ、ポスター配布。 ○資料借用先(寺院)の檀家にチラシ配布。仏像等歴史研究団体にチラシを配布。 ○秋の観光シーズンであり、養老溪谷等の旅館組合にも広報した。

段階評価	3.3
所見 指摘事項	○セミナーの回数を年齢層別に増やす努力があっても良い。 ○レイアウトは大変印象深く興味の持てるものである。 ○ポスターの納品が開催直前となったために広報面ではマイナスであった。宣材の配布遅れについては、今後、遺漏無きよう対応を願いたい。 ○観光客の取り込みについて、地域観光事業者に積極的に行った点は評価できる。多種多様なメディアにアプローチがなされていて努力された事が理解できる。
対応	○博物館セミナーの回数を年齢層別に増やすことは、現状の人員配置では困難である。この点については、企画展関連イベントを工夫することで、それぞれの年齢層にあったプログラムを提供したい。 ○チラシ・ポスターは、今後は、企画展開催の 1 か月前までに完成させ、速やかに配付できるように努める。配布については、昨年度の入館者情報をもとに広報計画を作成し、周辺地域や関係者、観光団体等に情報が十分行き渡るようにしたい。 ○観光客の取り込みについては、これまでどおり、マスコミ等のメディアやホームページなどインターネットを積極的に活用していきたい。

## 重点事業評価シート(評価結果と対応)

総合評価	3.8	部分的に検討する必要がある
評価内容	<p>○少ない職員数の中で、ホスピタリティに富んだ施設運営が行われていることは評価できる。少人数配置の分館において、新たな文化資源の発掘などのフィールドワークや、地域との協働構築などは人的な限界があると思われるので、本館の支援、連携・協働についてさらに深化させ、展示活動の充実に努められるようお願いしたい。</p> <p>○博物館の面積と内容を考慮すると配置されている職員数の絶対数が不足していると感じられた。平常時はどうにか業務に対応できているのかもしれないが、リスクマネジメントの観点からやや不安に思う。少人数で運営されている割には大変内容が充実しており、努力が表れている。</p>	
対応	<p>○職員数において「リスクマネジメントの観点から不安」という指摘は、中央博物館として重く受け止め、企画展開催中やイベント開催時には本館からの応援職員の派遣等考えていきたい。</p> <p>○日常の館運営や業務においても、分館担当職員の負担を軽減できるように本館職員との調整をはかり、それによって、県民が安心して利用できる充実した博物館を目指していきたい。</p> <p>○上記は、共に職員数に起因する問題であり、将来的には、文化財課と調整を図りながら、増員について検討していきたい。</p>	

中央博物館分館 海の博物館

事業名：資料の収集・保存・管理活用について

評価項目	5 収集、保存及び活用 ①資料収集 ②資料保存 ③資料管理 ④資料活用
項目概要	使命に則した資料収集と、収集した資料の保存処理・資料管理が適切に行われ、研究及び展示・普及等で有効活用しているか。

① 資料収集の基本的な考え方と実施

A. 使命に基づいた資料収集であるか

目標・指標	千葉県海の自然誌に関する資料を適切に収集する
実績・内容	館の使命や重点研究テーマ(県内・県外)及び調査研究計画等に基づき収集を行っている

B. 資源保護に配慮した資料の収集が行われているか

目標・指標	全体計画に位置づけた収集を行う
実績・内容	沿岸生物の収集は、毎年特別採捕許可をうけて行っている

段階評価	4.0
所見 指摘事項	○地域における海洋生物の収集に非常に熱心に情熱を傾けている様子が理解できた。外房の生態系の保存の意味も含め重要な業務の一端であろう。 ○周辺の自然環境および漁協関係者などの地域的人材環境を十全に生かし、効率的な資料採集が行われている。
対応	○今後も館の使命や研究テーマ及び調査研究計画等に基づき、法令を遵守し地域の人材も活用しながら資料収集活動を継続していく。

② 収集資料の適切な保存処理

A. 保存処理が適切に行われているか

目標・指標	○保存に使用する薬剤等を安全に管理する ○保存処理をする資料は、学術的価値を損なわず、かつ将来の活用を見据えた保存処置を行う
実績・内容	○労働安全衛生法施行令及び特定化学物質障害予防規則等により、使用薬剤は安全に管理している。 ○保存処理の様態により適切な保存場所(各収蔵庫)に安全に保管している。

段階評価	4.0
所見 指摘事項	○保存に至るまでの過程は手際良く処理されていた。薬剤についても安全を重視し、適切に取り扱われていた。保存過程に応じてそれぞれ適切な場所に保管されていた。 ○文系資料と異なり、資料を作成するのは作成者の経験やノウハウのよところが大きいと感じた。人員が入れ替わること、収集者の専門領域が変われば収集資料も変わっていくなどを考えるならば、館全体で資料作成の効率化を図ることのできるノウハウや、活用を見据えた資料のかたち、の指針や作成マニュアルを共有化していくことも必要性も感じた。
対応	○今後も適切な薬剤使用と管理を継続していく。収集資料の保存処理については、マニュアルを共有化している。資料については、個人の専門分野に偏重することなく、職員間での話し合いを行いながら、館の中長期の研究や収集計画等の活動に基づき、効率的に行っていく。

③ 適切な資料管理

A. 保存処理後の資料が、良好に管理されているか

目標・指標	○保存処理された資料は、博物館資料として基本的調査研究を行って登録・管理する ○博物館周辺の海の生物相を明らかにする一環として、良好な状態で収蔵管理する
実績・内容	○保存処理された資料は、様態別・目的別に収蔵庫等において適切に収蔵管理している。(H23 末資料点数 58,856 点) ○液浸・乾燥という資料の処理様態に合わせた収蔵庫で、区分して収蔵管理している

段階評価	3.5
所見 指摘事項	○設備の有効性もさることながら、スタッフによる耐震対策や保管方法にも工夫を感じた。しかしながら、実際に被害が出ていなかったとしても、IPM の観点からみれば、掃除や虫被害のモニタリング調査などをもう少し計画性を持って行っていく必要があるのではないか。
対応	○収蔵庫等における定期的なモニタリングを行って、虫等の侵入による収蔵資料への被害防止を図っていく。また、収蔵庫内清掃についても、これまで以上にこまめに実施していく。定期的に行っているモニタリング結果を毎回示し、職員間の IPM 意識も高めていく。

④ 保存処理資料の活用

A. 収集した資料は、館事業で有効に活用されているか

目標・指標	展示事業や研究・普及資料として有効に活用する
実績・内容	博物館での展覧会や常設展示等で紹介したり、他の機関等への貸与等により有効活用をしている

B. 活用促進のための努力や改善をしているか

目標・指標	展示事業等の将来計画を設定している
実績・内容	中期程度の重点研究テーマや調査研究計画等を設定して有効な収集及び活用を図っている

段階評価	3.5
所見 指摘事項	○実際に採取した資料を企画展示として活用したり、資料標本の価値が他館にも認められている点など、スタッフの努力と、目の確かさを感じたが、収蔵されている資料点数に比して、活用されている割合は少ないと感じた。館内の展示スペースや常設展示構造そのもの問題もあるかもしれないが、多くの所蔵資料を公開する機会、企画展、ワークショップなどが計画されるとよいのではないかと。
対応	○狭隘な展示室であるが、できるだけ館の収蔵資料の比率を高めた展覧会を心がけていく。また、外部研究機関等への収蔵資料(標本)の貸与も積極的に行って活用を図っていく。さらに、学校団体を対象にしたバックヤードツアーの回数を増やすなどして、収蔵状態での資料活用の機会を多く提供する。

## 重点事業評価シート(評価結果と対応)

総合評価	3.8	部分的に検討する必要がある
評価内容	<p>○博物館というよりはむしろ海洋研究所の様な機能を持ち、地域性を重視した海洋生物の生態の研究や展示に努力されていることが理解できた。</p> <p>○現在の施設は、資料収集、保管には適切な設備であるように思われるが、人的資源力によって支えられている面が大きいと感じた。人員の流動性がある組織において、どのようにノウハウや館としての専門性、各収集資料の重要性を継承していくかは常に課題となるのではないかと感じた。さらに、震災の経験を踏まえるならば、所蔵資料を今後どのように保管、活用していくのか、についての大きな方針が必要不可欠ではないかと考える。所蔵される資料標本には日本や世界においても唯一のものも多く、一つの博物館の問題としてよりも、県下の理系博物館における、所蔵資料の保存・保管・活用についての指針が必要なのではないかと。</p>	
対応	<p>○館の立地と専門性、収集対象資料の特殊性等を活かしながら、今後も効率的効果的な資料の収集と活用を行っていく。併せてより安全な資料の収蔵方法や活用の方法等についても館全体で検討していく。現行の保存処理のマニュアルの充実を図り、人員の変更にも容易に対応できるものとしていきたい。</p>	

県立現代産業科学館

事業名： 企画展「未来へつなぐエネルギー ～いま走り出した つくる ためる つかう 技術～」

評価項目	7 展示 ②企画展示(入場料の変更が必要な展示)
項目概要	使命に則した展示であるか。

① 展示の方針と実施計画

A. 使命に基づいた展示が行われているか

目標・指標	科学・技術の発展を示す。
実績・内容	次の三つの構成によりエネルギーにかかわる新しい技術や注目されているエネルギー資源について展示を行った。 ① 新しいエネルギー利用技術 a. つくる: 小水力発電水車・発電所模型, 小型風力発電機, 色素増感太陽電池, 熱電発電装置, バイオ電池模型, 地熱発電で紹介 b. ためる: リチウムイオン電池での実際の充放電の展示で仕組みと原理を示した。 c. つかう: 非接触給電システムのジオラマ模型・実験装置・コイルカットモデル, 超小型電気自動車で方向性を示した。 ② 注目のエネルギー資源: これからの石炭利用を実物・模型・図版で, メタンハイドレートの現状を映像・模型等で展示した。 ③ 房総半島の地下資源: 天然ガスについて歴史的背景を当時の映像・上総掘り模型で説明し, 現在の利用状況を天然ガスネットワーク図などで展示した。

B. 話題性、メッセージ性のある展示を行っているか

目標・指標	最新の研究成果の提供
実績・内容	○気温と体温という少しの温度差で発電する熱電発電素子や, 電車の車輪の回転で発電しそれを超電導を利用してフライホイールを回し続けて蓄電する装置でいままでも利用できずに無駄にしていたエネルギーを有効に使えるようにする技術や, 風車の羽根の周辺に発電機をつけた風力発電機等を紹介した。 ○新しいエネルギー資源としてのメタンハイドレートやメタンを貯蔵する方法としてのメタンハイドレートと既存のエネルギー資源である石炭の環境にやさしい利用方法である石炭ガス化技術を展示説明した。

段階評価	2.8
所見 指摘事項	○展示のねらいはよいと思うが, 実際の展示を見ると観覧者には十分に伝わっていないように思われる。趣旨は3だが, 計画の妥当性は2。 ○展示は現代産業科学館の使命に則した企画であり, 未来のエネルギーと生活の関連を展示した。大規模なエネルギー発生装置から身近なものまで紹介されていたがそのパワー、影響などが見え難い。県内で見られるエネルギー関連施設、設備の大型写真を用い、その諸元や必要性などについても説明があれば身近に感ずることが出来るのではないかと。
対応	○企画展の中長期計画に基づき私たちが考えていく必要のあるこれからのエネルギーについて提示した。展示のねらいをいかに入場者に伝えるか、また、県内の事例を増やしより身近な展示とじてもらう等の展示の計画・手法について、更に研究・工夫していく。

② 様々な来館者を想定した展示工夫

A. 展示手法等で工夫がみられるか

目標・指標	企画展会場への導入の工夫
実績・内容	○館の外側に向けて大型ディスプレイの掲示やエントランスホールに直径3mの風力発電装置を配置することで企画展開催を印象付けた。 ○会場入口が認識できるように入口の前に広めにゲートを設置し、企画展の看板やバナーを周囲に配置した。 ○乗車体験イベントで使用している電気自動車を会場入口の常設展示場側に配置し子どもたちの注意をひきつける工夫をした。
目標・指標	展示空間の有効利用
実績・内容	○エントランスホールも会場として、館に入ったときから企画展を認識してもらえるように、通常展示している資料を企画展資料に置き換えて展示空間を広げた。 ○会場内に広場的な空間をとり、手回し発電や風力発電等が体験できる展示コーナーを設けた。 ○常設展示場にある関連資料の配置図を会場入口わきに貼り出すとともに、関連資料の写真を企画展資料のわきに貼り、入館者の興味が館全体に広がるよう工夫した。
目標・指標	展示構成や見せ方の工夫
実績・内容	○企画展示室入口にゲートを設けてエントランスホールでの視認性を高めた。展示コーナーを区別させるため、コーナーごとにデザインした細長いバナーを設け、バナーの色と解説パネルの一部につけた色を統一した。 ○できるだけ展示物に触れたり操作できるようにして体験的に紹介。子どもたちが様々な発電を体験できるようにした。 ○動きのない資料等については入館者の理解を助けるためにその資料が稼働している映像を上映した。

B. 理解を深めるための工夫をしているか。

目標・指標	解説パンフレットの作成
実績・内容	○解説パンフレットを4000部作成し入館者に配布した。 ○展示資料の写真を多く入れ、また、理解しやすいように平易な言葉を使うようにしたが、避けられない専門用語については、注釈を入れた。
目標・指標	ワークシートの作成
実績・内容	○「エネルギー博士チャレンジシート」を作成し、5つの質問の答えを会場内で探すことによって、楽しみながら子どもたちがエネルギーや資源に興味関心を持って見学できるように工夫し、参加者には石炭サンプルを渡した。
目標・指標	展示体験補助等の実施
実績・内容	○会場内に発電に関する器具を多数用意したコーナーを設け、館職員が交代で体験の仕方や発電のしくみ・内容などについてわかりやすく説明した。これにはボランティアも参加し、また、入館者が多い時には当番以外の職員も対応した。



段階評価	2.5
所見 指摘事項	○いろいろと工夫していることは理解できるが、充分効果を上げていると言いがたい。さらなる努力が必要。「はやぶさ」の展示の時のように、常設展示等の空間をもっと上手に使い、ダイナミックで魅力的な展示環境を作り出すことも必要。また、解説員や映像や体験装置などを配しているが、全体的には、説明的な展示で、「教えてあげている」という雰囲気がまだまだ感じられる。空間も展示の語り口も、もっと開放的なものに挑戦してほしい。 ○解説パンフレットの解説はやや難しく感じるが工夫されている。写真、図版は企業からの提供もあるとおもわれるが、大きさの説明が少なく実大ほどのくらいなのか分かってよいのではないかと。
対応	○企画展示場の位置や導入、空間の有効利用、わかりやすい展示構成や展示資料の見せ方・解説の工夫などについて、来館者の観覧を助け展示内容の理解を得るようさらに努力していく。 ○展示資料の大きさや提示方法の工夫で常設展示場やエントランスホールの空間を効果的に企画展示会場として使用していく。 ○来館者の観覧を支援するために解説パンフレットを配布している。解説する紙面に制限があるが、わかりやすい解説を今後さらに工夫していく。また、展示資料の寸法、重量などの情報も理解を深めるために記載していく。

## ③ 入館者状況

## A. 入館者数はどうか

目標・指標	昨年度比1%増(1日当たり入館者数)
実績・内容	○開催期間44日の1日当たり人数は147人、昨年度比約34%減(75人減)であった。 ○入館者数は6,505人であった(昨年度8,472人:38日間)。

## B. 入館者の満足度はどうか

目標・指標	アンケートから満足度80%以上
実績・内容	○「おもしろかった」「とてもおもしろかった」と回答いただいた割合 ①アンケート集計 1(10/20~11/25) 94% ②アンケート集計 2(11/27~12/9) 86% ○アンケートの依頼方法を以下のように変更した。 ①会場に用紙を設置し希望者が回答する方式。回答者に石炭サンプルを配布した。小中学生の回答者が多かった。 ②全入館者にチケットカウンターで依頼する方式。家族での入館者には1組1枚の用紙でお願いした。30代40代を中心とした一般の方の回答が多かった。 -別添の集計資料参照-

## C. アンケートの実施とニーズの把握

目標・指標	適切な項目の設定
実績・内容	入館者の属性と企画展を知った情報源、興味関心を持った展示とその理由及びエネルギーについての感想を探るようにした。

段階評価	2.5
所見 指摘事項	○観覧者の満足度は高い結果が出ているが、サンプリング精度の高い②のアンケート結果では「おもしろかった」が51.1%を占めている。「とてもおもしろかった」の割合が高くなるよう、さらに努力が必要だと思う。 ○質問項目には、来館回数と来館頻度を加え、新規来館者の開発のためのデータ分析や、リピーターの要望分析にも活用できるようにすべき。 ○小中学生の回答が多く、サンプル数が少ない。小中学生の居住と周知、来館回数の関係の継続的調査が必要だろう。
対応	○これからもアンケートを全入場者に依頼する方式でサンプリングの数と回答の精度を上げる。 ○観覧者の満足度が上がるよう展示内容・手法を工夫する。 ○観覧者の反応を引き出す質問項目を加えていく。

## ④ 民間、県民、他館等との協働

## A. 民間、県民、他館等との連携があるか

目標・指標	資料の借用と関連データの提供
実績・内容	○展示資料等においては36機関から借用および提供協力いただいた。(民間企業19,NPO法人2,財団法人等6,大学等3,協議会1,県庁等4,博物館1) ○展示構成ごとに協力いただいた機関は以下のとおり ①新しいエネルギー利用技術:(株)フジクラ,A-WING インターナショナル(株),田中水力(株),ソニー(株),(公財)鉄道総合研究所,昭和飛行機工業(株)等 ②注目されるエネルギー資源:釧路コールドマイン(株),釧路市立博物館,メタンハイドレート資源開発研究コンソーシアム,(独)海洋研究開発機構 ③房総半島の地下資源:関東天然瓦斯開発(株),千葉県文書館,(株)シクロケム,江崎グリコ(株),君津市生涯学習交流センター等

## B. 県民等参画の機会を設けているか

目標・指標	民間、県民等の協力者
実績・内容	○関連事業としてのエネ学教室において、東京ガス(株)、関東天然瓦斯開発(株)、(株)三井造船、ソニー(株)等の民間企業から講師および資料提供の協力をいただいた。 ○講座「千葉県の産業遺産とその活用を考える」参加者による天然ガスに関する調査内容をまとめ、休憩コーナー入口付近に掲示した。
目標・指標	ボランティアの参加
実績・内容	○展示場での入館者対応及び体験補助等に概ね1日1名参加。 ○エネ学教室での実験補助として各回2~3名参加した。

## C. 事業の財源に県以外の組織との協力関係があるか

目標・指標	外部助成を得ているか。
実績・内容	(独)科学技術振興機構(JST)から事業資金の助成を得て、関連事業としてエネ学教室を実施した。

重点事業評価シート(評価結果と対応)

段階評価	3.5
所見 指摘事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多くの企業や機関に協力を得て、実現できたことは評価したい。しかし、協力機関が満足できる企画展示の内容・質であったかは、調査をすべきだと思う。もっと質の高い展示にしないと、サポーターが逃げてしまうこともあり得る。今後も関係を大切にしたいのであれば、さらに努力が必要。</li> <li>○多くの機関からの資料借用、研究情報の提供、講座講師、実験材料等の提供をうけており、連携の重要性がわかる。館の存在周知でもあり、社員の方へのPRも可能。このような連携は今後、活動するうえでの財産となるであろう。関係を切らさないような情報交換を行ってほしい。</li> </ul>
対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>○展示・運営協力会会員の団体を中心に連携を維持し更につながりを強化していきたい。</li> <li>○新たな協力先については、企画展で終わるのでなく常設展や実験教室等イベントなどでの協力を得られるようにして、協力関係を継続し相手の評価・意見を確認して次へつなげたい。</li> </ul>

⑤ 博物館の普及及び企画展示等の広報活動

A. 会期中に展示内容に関連した教育普及活動が行われているか

目標・指標	関連事業の実施
実績・内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○エネルギーへの興味・関心を高めるため、エネ学教室を6教室10日17回実施した。</li> <li>○会期前の7月と10月には、親子と大人を対象として事前申し込みによる、天然ガスとコードに関する実験体験と工場見学をセットにした教室を実施した。</li> <li>○その他の教室は、当日参加方式で、メタンハイドレートの燃焼実験や燃料電池による発電実験などを行った。</li> </ul>

B. 積極的な広報活動を行っているか

目標・指標	適切な情報提供計画の策定
実績・内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○内覧会を開催するとともに報道機関へ情報提供を行った(県庁記者クラブ1回、市川市記者クラブ2回、NHK千葉放送局ラジオ出演1回)。企画展内容とエネ学教室の予定をホームページで事前に公開した。</li> <li>○情報の掲載としては、新聞3紙、ミニコミ誌・雑誌8誌、webサイト12箇所に取り上げられた。</li> <li>○県内のすべての小中学校をはじめ、図書館・公民館などを中心に、計画的にチラシ・ポスターを配布した。</li> <li>○隣接する都内の江戸川区・葛飾区の小中学校にも、県内と同様に配布を行った。</li> <li>○県内をはじめ、関東地区の小学校の理科教諭の研修会に出席し、企画展の広報を行った。</li> <li>○大学(千葉工大、千葉商大)にも出向き、チラシ配布による広報活動を行った。</li> <li>○急きよであるが、12月5日から7日まで幕張メッセで開催された「第7回再生可能エネルギー世界展示会」で主催者の協力を得てポスター掲示とチラシ配布を行った。</li> </ul>

段階評価	2.8
所見 指摘事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>○関連事業の内容は質の高いものであったと思う。しかし、広報面では効果があまり出ていないように思われる。どこに問題があるのか分析すべき。</li> <li>○チラシのデザインがよくなかったというのが観覧者数が少なかった要因とも考えられる。</li> <li>○文字ばかりでどんな内容なのか分からない。これでは見に来る気が起きない可能性が高い。</li> <li>○アンケートの情報源の結果を見ても、チラシを見ては大変少ない。6割強が「来館して知った」となっており、広報面に多くの課題を残したと言えよう。この結果を十分に分析し、今後の改善に繋げてほしい。</li> <li>○県内の学校(少・中・高)の科学クラブの活動状況などの把握も必要。企業や塾が開催する科学教室などの情報も収集し、広報活動に利用されたい。サイエンスアゴラへの参加、参加者への周知活動も必要。</li> </ul>
対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>○展示・運営協力会会員の団体を中心に連携を維持し更につながりを強化していきたい。</li> <li>○新たな協力先については、企画展で終わるのでなく常設展や実験教室等イベントなどでの協力を得られるようにして、協力関係を継続し相手の評価・意見を確認して次へつなげたい。</li> </ul>

総合評価	2.8	部分的に検討する必要がある
評価内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○展示のねらいはよいが、その表現方法や広報活動の課題。スキルアップが急務。(時期が悪いのか、私はいつまで経っても、本館でおもしろい企画展示に巡りあえていない。)</li> <li>○企画展示のタイトルと展示資料とのバランスが難しい展示。「エネルギー」の言葉のもつ大きさのイメージと、展示ではその原理等の模型の展示が多く、「巨大」が見え難い。エントランスの風力発電装置は目につくが、国道、コルトンプラザ、図書館から科学館への導入アイキャッチとして館入口付近に工夫があるとよかったのではないかと。(例風力発電のブレード)</li> </ul>	
対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>○調査研究、情報収集、展示物確定したうえでの展示方法・解説方法の訓練を繰り返し、入場者に展示のねらいを十分に伝えられるような熟練者が育つように組織化したい。</li> <li>○企画と予算によるが屋外にアイキャッチとなるような展示資料の借用を考えたい。</li> </ul>	

## 県立現代産業科学館

## 事業名： 企画展連携事業エネ学教室 ～エネルギーについて学ぼう～「燃える氷 ～メタンハイドレート～」

評価項目	8 教育普及事業 ①体験学習・ワークショップ・イベント・観察会・講座・連携事業等
項目概要	使命に則した企画展開連事業であるか。

## ① 事業の基本的な考え方と実施

## A. 使命に基づいた事業が行われているか

目標・指標	科学技術に親しむ内容とする
実績・内容	<input type="checkbox"/> 新しいエネルギー資源メタンハイドレートについて、参加者に正しく理解してもらえる教室を実施した。 <input type="checkbox"/> 単にメタンハイドレートを燃やすだけでなく、一見氷のように見えるメタンハイドレートと普通の氷との比較を行い、調べて分かった特徴を参加者自身がワークシートに書き取っていく手法を取った。 <input type="checkbox"/> 説明だけではなく、参加者とのやり取りを交えながら興味を引くように進めた。

## B. 話題性があり、楽しみながら科学に親しむことのできる参加体験型の事業が行われているか。

目標・指標	選定されているテーマは企画展に関連した適切か
実績・内容	<input type="checkbox"/> メタンハイドレートは日本の近海に埋蔵されているエネルギー資源として今一番注目を浴びていることから、本企画展でも「注目のエネルギー資源」の中で取り上げた。 <input type="checkbox"/> 普段目にする事のないメタンハイドレートを、参加者が、実際に触ったり、燃やしてみたりという体験を通して理解する教室として実施した。

段階評価	3.5
所見 指摘事項	<input type="checkbox"/> 専門的に知識がなくても、楽しみながらメタンハイドレートの特性を学べる質の高いプログラムだと思う。 <input type="checkbox"/> メタンハイドレートは、エネルギー資源として注目されているが、日常では目にする事はない。実物を見て、燃焼実験を行うことはメタンハイドレートを理解する良い機会であった。
対応	<input type="checkbox"/> 参加した子どもたちは、メタンハイドレートの実物に触れ、非常に似ている氷を比べ、燃焼実験を通して性質を知ることができた。新しいエネルギー資源として企画展で紹介しているメタンハイドレートについて、親しみながら理解できたと考えている。今後もこのような企画を推進していきたい。

## ② 参加対象者に応じた事業展開になっているか

## A. 連携先との調整が適切に行われているか

目標・指標	実施内容・条件確認、会場準備について打合せを十分に行う
実績・内容	<input type="checkbox"/> 実験会場の確認のため、企画展の視察を兼ねて連携先の担当者が2度来館し、打ち合わせを行った。 <input type="checkbox"/> それに加えて、メールと電話で十分に実施内容・条件・会場準備等について打ち合わせを行った。

## B. 実施内容は参加者を引きつける内容か

目標・指標	話題性、最新の科学技術を体感できるか
実績・内容	<input type="checkbox"/> メタンハイドレート自体、現在の日本中から注目を浴び、期待されているエネルギー資源である。 <input type="checkbox"/> 講師との対話によりメタンハイドレートの内容や構造を知り、さらに実物に触ったり、水上置換によりメタンガスをハイドレートから取り出すことや、メタンハイドレートを燃やしたりする実験を、講師・本館職員等の安全管理をふまえた指導のもと参加者自ら体験することができた。

## C. 体験を行うにあたり安全性は確保されているか

目標・指標	安全性を確認しているか
実績・内容	<input type="checkbox"/> 講師は子ども向けの実験教室を数多く経験しており、また、事前に作業手順等の打合せを行い安全面の確認をした。 <input type="checkbox"/> 教室の各実験テーブルに館職員やボランティアを1名ずつ配置し参加者に対して適切な指導を実施した。

段階評価	4.0
所見 指摘事項	<input type="checkbox"/> 経験豊富な講師、参加者へのサポート体制も万全で、質の高い事業が実施できており、大いに評価したい。 <input type="checkbox"/> 実験では講師、ボランティアとも進行に充分気を配りながら行っていた。講師、ボランティアとの連携もよかった。
対応	<input type="checkbox"/> 十分な事前打ち合わせを行い、実験内容を決め、さらに、安全面を配慮しながらの実験の参加体験をすることができた。

## ③ 広報活動

## A. 参加者を増やすための効果的な広報活動を行っているか

目標・指標	チラシ、リーフレット、ホームページによる広報を行う
実績・内容	<input type="checkbox"/> 「エネ学教室」単独の案内チラシを作成し、県内の全ての小学校をはじめ、市川市・船橋市内の図書館、公民館に配布した。 <input type="checkbox"/> 特に、市川市・船橋市の館周辺の小学校へは児童一人に一部届くように配布した。 <input type="checkbox"/> 企画展内容とエネ学教室の予定をホームページで事前に公開した。 <input type="checkbox"/> 企画展会場のメタンハイドレート展示のそばに「エネ学教室」紹介キャプションとリーフレットを設置し参加を促した。
目標・指標	地域情報紙等への掲載や広報資料を関係機関へ配布
実績・内容	<input type="checkbox"/> 会期前に報道機関へ情報提供した。 <input type="checkbox"/> 会期前半には、改めて地元自治体の「市川市記者クラブ」を通じて、情報提供を行った。

段階評価	3.0
所見 指摘事項	<input type="checkbox"/> 広報活動に関しては、企画展同様、見直しが必要と思われる。 <input type="checkbox"/> 企画展示期間中の講座参加者の属性、周知方法などの調査が必要。
対応	<input type="checkbox"/> 企画展の広報活動で指摘された事項と連動させ、企画ごとに適切な広報を研究し工夫する。

重点事業評価シート(評価結果と対応)

④ 民間、県民、他館等との協働

A. 民間、県民、他館等との連携があるか

目標・指標	民間、県民等の協力者
実績・内容	○(独)産業技術総合研究所メタンハイドレート研究センターとの連携で実施した。同センターの研究成果を随所に入れながらの教室である。

B. 県民等参画の機会を設けているか

目標・指標	ボランティアが参加しているか
実績・内容	○ボランティアは実験補助として2名参加した。

段階評価	3.0
------	-----

⑤ 事業実施状況

A. 参加者数はどうか

目標・指標	定員25名
実績・内容	当日申し込みで14名の参加であったので、同伴した保護者も一緒に参加する方式を取った。

B. 参加者の満足度はどうか

目標・指標	アンケートから満足度 80%以上
実績・内容	○アンケートから、「楽しかった」は 100% 「わかりやすかった」は 84% 「またやってみたい」は 96% 「友達を誘ってみたい」は 85% であった。満足度は 80%以上であると判断した。

段階評価	3.0
------	-----

所見 指摘事項	○充実した協働体制で実施でき、参加者の評価も高かった事業だが、参加者が少なかったことが残念。 ○講師の解説も分かりやすく、また補助のボランティアも各グループの進行に合わせたアドバイスやメモの取り方などを指導しており、参加者の満足度も高い。
------------	--

対応	○(独)産業技術総合研究所メタンハイドレート研究センターとの連携で、子ども対象の実験教室を多く実施している職員の協力を得ることができた。ボランティアとも事前に指導法・進行を打合せして参加者が満足して体験できた。 ○参加者数が定員に満たなかったため付添の保護者にも参加体験してもらったが、今後も事前や当日の効果的な広報の方法を工夫する。
----	--

総合評価	3.5	部分的に検討する必要がある
------	-----	---------------

評価内容	○講師のこれまでの豊富な経験が生かされ、大変質の高いプログラムだったと思う。こうしたプログラムを本館のスタッフが企画実施できることが好ましいが、コーディネートしてよい教育普及プログラムを県民に提供していくことも責務であると思う。 ○企画展示関連の講座として(独)産総研メタンハイドレート研究センターとの連携し開催された。博物館、研究センター双方に存在と活動の広報ができた。この講座では参加者の驚きや感動が多くあり、参加者の記憶に残るであろう。今後、各メディアに登場するであろう「メタンハイドレート」をみるたび実験をおもいだすことと思う。今後も企画展示に合わせた講座を開催し、館の存在と活動を周知するとともに関連機関との連携を進めてほしい。
------	--

対応	○今後も外部の機関や研究者と連携して専門的な内容をわかりやすく体験できる事業を提供していく。同時に本館の職員も研究を重ねてこのような教育普及事業を企画実施できるようにしたい。 ○専門の研究機関と連携して日本近海海底に大量に眠っている、新エネルギーへの活用に期待がかかっているメタンハイドレートの性質に理解を深めてもらうことができた。これからもこのような連携を維持しさらに様々な講座等を実施していきたい
----	---

## 県立現代産業科学館

## 事業名： 常設展示リニューアル計画

評価項目	7 展示 ①常設展示
項目概要	使命や館の活動方針に則した展示の更新及び中期的な展示計画は検討されているか。

## ① 常設展示に対する来館者の満足度調査

## A. アンケートを実施し、ニーズの把握を行っているか

目標・指標	アンケート調査の実施
実績・内容	○入館者の様々な意見を聴き取ることを目的とし、時期を変えて調査を実施している。昨年は、10月と2月に実施した。本年度は、6月に実施した。 ○入館者の意見・感想の精度を高めるためにアンケート回答数を多くする、細かな改良・追加点などについての反応を捕えるような方式等を工夫している。その方策として、12月に国立教育政策研究所で開催された「博物館学芸員専門講座」に職員を派遣し、実践的な博物館における評価とニーズの在り方について研修し、その内容を現場に還元するよう努めている。
目標・指標	調査結果の分析・対応
実績・内容	○入館者の属性や館内での動きなどの実態と展示に対する意見と要望を調査し、その傾向と問題点を把握。そこで出た課題を改善するために、展示の更新・改良、及び、解説タイムや解説ツアー等に反映した。 ○リピーターとなり得る年間パスポート所有者(約100名)を対象に、館のモニター制度の導入について検討中である。
段階評価	2.5
所見 指摘事項	○分科会以降、さらに進め方や実施方法の見直しを行ったことは評価するが、取組は始まったばかりなので、今後に期待したい。 ○質問項目に、住所→エリア戦略、来館回数・頻度→リピーター対策や新規来館者の開発策を検討できるので入れるべき。日頃の博物館利用やレジャーの行き先を決める際の情報源の確認も広報戦略の検討データになるので加えたい。改善の優先度を調べるため、展示項目毎の満足度と改善要求度を調べることも判断材料になるので、調査を実施してもらいたい。 ○アンケート調査は館にとって必要であり、継続して実施してほしい。サンプル数の増を図り、クロス集計も行うこと。また、アンケートだけでなく、動線調査、滞留時間調査も随時実施し入館者の実状把握に努めてほしい。
対応	○常設展の改善につながるようなアンケート調査を、有意な結果が導ける十分なサンプルサイズにおいて実施するためには、以下のような課題がある。 ①創造の広場でお子さんを遊ばせる近隣の方を除くと、平日に常設展を見学される個人の方は、極めて少数であり、その方たちの意見を把握するには、長期間の聞き取り調査を行わないといけない。 ②団体見学者は、引率者を除くと初めての来館者が多く、見学時間も短いため、有効な意見を聞き取りにくい ③企画展やプラネタリウム期間中にはたくさんの来館者があり、サンプル数を増やすことができるが、回答者が常設展と企画展を混同して回答する可能性が高く、常設展の課題を抽出しづらい。 ○以上のような理由から、常設展については、長期間の聞き取り調査または、モニタリングのために来館者を招待するイベント等、有効なアンケート調査とするために工夫が不可欠である。十分な研究を経た上で、実施方法を工夫したい。

## ② 常設展示の更新・改良

## A. 展示導線の工夫を行っているか。

目標・指標	展示場への導入の工夫
実績・内容	○エントランスホールで入ってきた入館者に科学館であることを感じていただき常設展示場へ誘導するため、「電気自動車」「スバル360」「距離センサー」「金環日食のしくみ」「浮かぶ地球模型」「逆遠近錯視」「エイムズの窓」などを展示。 ○「現代産業の歴史」への誘導サインをエレベーター・エスカレーター・階段前と2階通路、階段に写真入りで設置。階段上に展示場に引き込むよう「F3000カウル」を展示。

## B. 展示資料の入換えや変更、及び、効果的な見せ方や工夫が加えられているか。

目標・指標	解説の工夫・キャプション等の変更
実績・内容	○「先端技術への招待」から「浮かぶ地球」をエントランスホールへ、「モーションビクチャーロボット」を科学情報コーナーへ移動した。エントランスホールから「距離センサー体験」を科学情報コーナーへ移動した。 ○「現代産業の歴史」で、エレキテル模型貸出用キット、「先端技術への招待」で探査機「はやぶさ」模型・多関節ロボット、「創造の広場」では VICS ジオラマ(借用)を追加展示。
目標・指標	資料の入換・追加
実績・内容	○「先端技術への招待」から「浮かぶ地球」をエントランスホールへ、「モーションビクチャーロボット」を科学情報コーナーへ移動した。エントランスホールから「距離センサー体験」を科学情報コーナーへ移動した。 ○「現代産業の歴史」で、エレキテル模型貸出用キット、「先端技術への招待」で探査機「はやぶさ」模型・多関節ロボット、「創造の広場」では VICS ジオラマ(借用)を追加展示。

## C. 演示実験の実施と改良や開発

目標・指標	実施方法と回数、新規開発等
実績・内容	○本館で最も人気のある「放電実験」が夏期節電で休止としたため、規模は小さいが目の前で様々な放電現象が観察できる放電実験プログラムを開発し実施。 ○放電実験装置が不調となった期間に放電実験室で実施した。なお、12月に修繕を実施し放電実験は再開した。

## D. 常設展示場等でのミニ企画展示の実施

目標・指標	館独自の企画による展示
実績・内容	○特設コーナーで「鬼高1丁目1番地ーくらしを豊かにした家電製品ー」を展示。 ○企画展「宇宙へのきぼう」で使用した宇宙飛行士体験コーナーや宇宙メダカ等の資料を活用。 ○ワークショップで「スバル360の修理風景」を展示 ○企画展「未来へつながるエネルギー」で使用した県内エネルギー資源の紹介と簡単な発電体験ができるコーナーの一部の資料を「しげん&えねるぎー」というタイトルで展示。 ○ドームギャラリーで新収蔵資料展(カメラ関係)2回、大平氏作成のプラネタリウム、ふしぎな錯視体験2回、パーソナルになったコンピュータという収蔵資料を中心としたミニ展示を順次実施。 ○館主催講座「千葉県の産業遺産とその活用を考える」で調査した内容を、参加者有志とともに長尺ポスター的に取りまとめ、休憩コーナー入口付近に掲示。
目標・指標	展示・運営協力会等との連携による展示
実績・内容	○特設コーナーで、展示・運営協力会の千葉工業大学工学部デザイン科学科の展示を行った。 ○ワークショップで「自然にまなぶものづくりー昆虫の生態と展示を通して考えるー」を成田西陵高等学校生物研究部と DIC 株式会社の協力で実施した。 ○市川工業高校と連携して、「インテリアデザイン同好会校外展」を実施した。2月末には同校インテリア科卒業制作展開催を計画している。

重点事業評価シート(評価結果と対応)

E. 更新・改良は検証しつつ行っているか。

目標・指標	作業中の検証及び更新・改良後の検証
実績・内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○科学情報コーナーは、映像視聴コーナーから遊びながらコンピューターが学べる体験を中心とした展示へと更新・改良した。</li> <li>○23年度には、以前から機器システムが動作不能であった科学情報コーナーの有効利用の検討を行い、部分的に体験型展示を設置し試行した。</li> <li>○体験している入館者の反応等を参考にしつつ、24年度初めに「アルゴブロック」「モーションキャプチャーロボット」等で体験型の展示コーナーとして運用している。</li> <li>○入館者の反応・質問などを参考にして操作説明を作り変える等改良に努めている。</li> </ul>
段階評価	2.5
所見 指摘事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な改善を行っているが、十分な効果を上げていないものも多いように思われる。</li> <li>○2階展示室への誘導はリピーターには無意味。目的を持って来館している可能性が高いから。</li> <li>○デザインが不統一であることは大きな課題。フォーマットを早急に整備すべき。展示メンテナンス会社のデザイナーに協力を要請することも検討したい。</li> <li>○資料の入れ換えについて、入れ換えてもいて、PR不足で、来館の動機につながっていない。</li> <li>○他の事業とのリンク:常設展示の充実を図ることも、企画展示やイベントの目的の一つとして、計画段階から成果をどう取り込んでいくかを検討すべき。</li> <li>○改善策が有効であるかの制作途中評価を必ず行い、利用者の満足度や学習意欲を高めるよう、継続的に取り組んでほしい。</li> </ul>
対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>○展示資料を替えられなくても配置や見やすさなど工夫して少しでもわかりやすくしていきたい。その効果を確認する方法(聞き取り等)を工夫して確認しながら進める。</li> <li>○サインやキャプションや補助パネルの設置等について、館内の再構築プロジェクトチームで検討・整備する。</li> <li>○資料の入れ換えについて、ホームページ等での紹介でPRしていく。</li> <li>○企画展示で製作した展示を常設展示している。また、企画展を含む連携事業で借用した展示で常設にふさわしいものについて可能な限り寄付受入等で展示している。計画段階から可能なものについて交渉を進めていく。</li> <li>○常設展示の更新・改良として実施した内容について、入場者の満足度を測り次へつなげるよう継続的に取り組んでいく。また、異動により半数以上が科学館未経験者になっても事業が維持・継続できるような方策を考案しなければならない。</li> </ul>

③ 中期的な展示計画

A. 展示計画の作成に向けた検討状況はどうか。

目標・指標	基本的な考え方と工程
実績・内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中期的な展示計画として、「常設展示再構築(更新・改良)基本計画」を1月に作成した。〈別添資料〉</li> <li>○具体的な作業を進めるプロジェクト(館長、副館長、各課長、普及課・学芸課職員計9名)を立ち上げて、再構築に係る詳細内容の検討・決定及び進捗状況の管理等を行い、全館体制で再構築に取り組む。</li> <li>○1月にプロジェクト会議を開催し以下の内容を並行して進めていくこととした。             <ul style="list-style-type: none"> <li>①短期的(3月中旬まで)に実施する内容                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・比較的簡単な展示追加・移動・入替、キャプション作成等</li> </ul> </li> <li>②継続的に実施する内容                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・展示資料の情報収集や調査及び協力者との詳細調整が必要な展示更新・改良</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
目標・指標	計画の実施に向けた館の取組み
実績・内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○お客様アンケートや館職員からの意見を集約し資料調査を進めている。             <ul style="list-style-type: none"> <li>①短期的に実施する内容                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「現代産業の歴史」入口部に「タンカー模型」を移動して展示場として目を引くようにした。今後、2階に「現代産業の歴史」展示場があることを更に知らせるため、エントランスホールに「鉄の原料」「石油製品」を移動すること、入口部に「エッフェル塔模型」を移動することを計画している。</li> </ul> </li> <li>②継続的に実施する内容                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・依頼予定先企業を中心に寄付資料に係る情報を収集して依頼事項案を検討・作成する。これを基にして、関連機関(展示・運営協力会会員、会員外の新規依頼企業等)と正式依頼前の十分な意見交換を行い内容の確定へと進めていく。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>

B. 県内外企業等との連携はどうか。

目標・指標	展示・運営協力会等との連携
実績・内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○24年7月の理事会にて展示物の更新等について協力会として協力していく旨の意見が出され、総会でも承認された。</li> <li>○25年3月の理事会で「常設展示再構築(更新・改良)基本計画」を提示し、協力を得る。</li> <li>○館からの要望を基に該当する会員と内容を詳細協議していく。</li> </ul>

段階評価	2.8
所見 指摘事項	○計画のバージョンアップや検討実施していくための仕組み作り、協力体制の整備など、積極的に取り組んでいる点は評価したい。しかし、まだ動き始めたばかりのため、来年度の動きを見て、判断したい。
対応	○24年度に作成した「常設展示再構築(更新・改良)基本計画」を、創立20年となる来年度からの10年あるいはその先に必要となる大規模改修等を視野に入れた「現代産業科学館再構築基本計画」に改訂する。これにより常設展示の日常的な更新・改良に加え予算措置が伴う長期的な方針とする。内容に変更はないが、「子どもの目を輝かせる常設展示の充実」「産業部門との連携強化」「既存の施設の有効かつ積極的活用」を今後10年を見据えた方向性を示す柱立てとし取り組んでいく。

総合評価	2.5	部分的に検討する必要がある
評価内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○積極的に取り組んでいる点は評価したい。しかし、まだ動き始めたばかりのため、来年度の動きを見て、判断したい。</li> <li>○継続的に現場を引っ張っていただける人材を登用してほしい。(県への要望)</li> </ul>	
対応	○日常的な業務での更新・改良や短期的な協力依頼(寄付受入)を継続する。中長期的計画は将来の大規模改修を視野に入れ、さらに「子どもの目を輝かせる常設展示の充実」「産業部門との連携強化」「既存の施設の有効かつ積極的活用」を今後の方向性を示す柱立てとし取り組んでいく。この計画と連動し展示・運営協力会では各会員へ展示等の協力依頼アンケートを実施するが、その結果を受けつつ常設展示リニューアルを進める。	

## 県立関宿城博物館

## 事業名：企画展「醤油を運んだ川の道－利根川・江戸川舟運盛衰－」

評価項目	7展示 ②企画展示
項目概要	使命に則した企画展示であるか。

## ① 展示の方針と実施計画

## A. 使命に基づいて展示が行われているか。

目標・指標	「河川とそれにかかわる産業」というテーマに沿った展示
実績・内容	○江戸時代以降、野田、銚子で生産されていた醤油を通して、舟運と深く関係があったことを紹介した。

## B. メッセージ性のある企画展示を行っているか。

目標・指標	地場産業として誕生した醤油醸造の製造過程を来館者に知ってもらう。
実績・内容	○醤油関係の展示スペースを広く取り、視覚的に訴える資料を多く展示した。 ○エントランスホールでは導入部として、醤油醸造の道具を展示し、さらに江戸時代の醤油造りを復元したビデオを流したり、醤油の諸味のおいしさを嗅いでもらったりした。

段階評価	4.0
所見 指摘事項	○立地環境や歴史に合致した企画であり、地域の関心呼び、館の認知度を高める優れた展示である。 ○館の使命に相応しい、初の「醤油」をテーマにした企画であった。
対応	○野田市の地場産業として発展した醤油をとおして、水運との関わりを探ることにより、館のテーマである「河川とそれにかかわる産業」に迫った。今後も、館の特性を生かした企画を心掛けていく。

## ② 様々な来館者を想定した展示工夫

## A. 展示手法等で工夫が見られるか

目標・指標	・展示方法 ・入口から企画展示室に至るまでの有効活用
実績・内容	〈展示方法〉 ○醤油造りの紹介に広いスペースをあて、醤油の原料や醤油醸造の道具など実物資料を多く展示した。 ○視覚から情報を得るだけの紹介でなく、映像による視覚・聴覚や、醤油の諸味のおいしさを嗅ぐという臭覚も働かせて感じ取ってもらう展示にした。 〈有効活用〉 ○エントランスホールでは、企画展示室に収容できない大型実物資料を展示し、企画展を積極的にアピールした。 ○常設展示室では、企画展に関連する資料をパネルで明示した。

## B. 展示パネル、キャプション等が分かりやすい内容であるか

目標・指標	パネル・キャプションの工夫
実績・内容	○章や節ごとにパネルの大きさを統一した。 ○字の大きさ等の基準を設け、見やすくわかりやすい解説を心がけた。 ○展示パネルやキャプションにルビを振った。 ○キャラクターを交えた子ども向けのパネルも用意し、小学生にも分かる解説を心がけた。

## C. 導線は分かりやすいか

目標・指標	順路の明示
実績・内容	○開催場所をエントランス、エレベーター入口に明示した。 ○企画展示室の入口に開催案内を掲示した。

## D. 展示解説等は適宜実施されているか

目標・指標	解説会の実施
実績・内容	○来館者の多い祝日に、解説会を2回(11/3・11/23)実施した。 ○随時、解説を希望した団体を対象に、職員が解説を行った

## E. 解説書等を作成したか

目標・指標	解説書等の作成
実績・内容	○展示図録を作成し、友の会が有償頒布している。 ○クイズ方式の問題を作成し、来館者の理解を深めた。 ○野外講座で小冊子を作成し、参加者に見学場所の理解を深めた。

## F. パンフレット、解説書等の内容は充実しており、分かりやすいか

目標・指標	展示図録における内容の充実
実績・内容	○醤油の出荷先ばかりでなく、醤油の原料となった大豆、小麦、塩の調達先も調べ、醤油生産において舟運と深くかかわっていたことを言及した。

段階評価	3.5
所見 指摘事項	○展示品にも日頃の館と地域との連携が判明され、好感が持てる。 ○展示方法やパネル作成方法などに経費削減の工夫がみられる。 ○施設上の制約からか、展示の流れがスムーズさに欠けていたのが残念である。 ○エントランスのジオラマ解説を企画展に合わせる、キャプションの記載内容に連続性を持たせる工夫も欲しかった。
対応	○今回の展示は醤油の生産を重視過ぎたため、醤油と利根川・江戸川水運との関わりや、醤油の歴史的背景がおろそかになった感があり、展示の流れがスムーズに展開していけなかった。次回は単元計画の段階で、起承転結を踏まえた単元構成を考え、物語性のある展示を心がけていく。 ○エントランスホールでは、企画展の導入部と位置づけて醤油に関連する大型資料を展示したり、醤油生産のビデオを流した。しかし、常設展示のジオラマ(境河岸のにぎわい)は活用していなかった。この中には、高瀬船に醤油樽を積み込んでいる風景も展示されているので、企画展にあわせた解説を掲示する必要がある。今後は、積極的にジオラマの活用を図っていきたい。

重点事業評価シート(評価結果と対応)

③ 入場者状況

A. 入場者数はどうか

目標・指標	30,000 人
実績・内容	19,253 人(目標設定より, 10,747 人の減)

B. 入場料収入はどうか

目標・指標	920,000 円
実績・内容	740,140 円(目標設定より, 179,860 円の減)

C. 入場者の満足度はどうか

目標・指標	5段階評価で4以上を80%以上
実績・内容	91%

D. アンケート等を実施し、実態の把握を行っているか

目標・指標	必要な項目の設定, 及び回収率を上げるための工夫
実績・内容	<input type="checkbox"/> 企画展及び関連事業でのアンケート調査を実施した。 <input type="checkbox"/> 年齢層, 地域, 情報入手媒体, 事業評価, 意見等を把握し, 今後の事業, 企画展にも反映させた。 <input type="checkbox"/> 回収率を上げるため, 協力者に記念品(手製のしおり)を贈呈した。

段階評価	4.0
所見 指摘事項	<input type="checkbox"/> 初来館比率が44%というのは大変価値のある数字であり, 評価される。 <input type="checkbox"/> 来館者の満足度も高く, 随所に努力のあとがみられた。 <input type="checkbox"/> アンケート回収率向上に工夫を凝らすなど, 入場者数増のために工夫が見られる。
対応	<input type="checkbox"/> アンケート調査結果について詳細な分析を職員全員で検証し, 共通理解を図った。今後, その成果を博物館活動の活性化のために館全体で取り組んでいく。

④ 他館, 民間, 県民等との協働

A. 県立博物館ネットワークを有効活用しているか

目標・指標	広報関連データの提供
実績・内容	情報システムの活用による広報活動を行った。

B. 他館, 民間企業, 交通機関, 県民等との連携があるか

目標・指標	醤油関係資料を収蔵している博物館, 民間企業, 交通機関, 友の会, 日本財団, 船の科学館・海と船の博物館ネットワーク, 関東地区博物館協会との連携及び協力
実績・内容	<input type="checkbox"/> 醤油関係資料を収蔵している博物館(野田市郷土博物館, 流山市立博物館, 境町歴史民俗資料館)からの資料提供。 <input type="checkbox"/> 民間企業(キッコーマン, 大久保醤油店, 大橋醤油店, 釜屋商店)からの資料提供。 <input type="checkbox"/> 交通機関(朝日バス, まめバス)へチラシの設置。 <input type="checkbox"/> 千葉県立関宿城博物館友の会の協力。 <input type="checkbox"/> 日本財団による支援金。 <input type="checkbox"/> 船の科学館, 海と船の博物館ネットワークによる広報。 <input type="checkbox"/> 関東地区博物館協会と連携し, 本企画展が共同企画展「河・川・かわ」に加わった。

段階評価	4.0
所見 指摘事項	<input type="checkbox"/> 数少ない職員での館運営のありかたとして, 他の機関や民間, 地域との活用に工夫がみられ, 評価する。 <input type="checkbox"/> 展示に関して立地地域の民間企業や公共団体との連携が図られているが, さらに入場者拡大のための協働を望みたい。
対応	<input type="checkbox"/> 今回の民間企業や公共団体の連携は資料の提供が主であった。今後は, 周辺の博物館と連携して合同企画展などを開催し, さらなる入場者の拡大に努めたい。

⑤ 博物館の普及および企画展示等の広報活動

A. 展示を通じた教育普及活動が行われているか

目標・指標	関連事業の実施
実績・内容	<input type="checkbox"/> 会期中に歴史講座「醤油を運んだ川の道」(10/14), 野外講座「醤油づくりの地を訪ねて」(10/21)を実施し, 企画展の理解を深めた。

B. チラシ・ポスター等は目を惹き, メッセージ性がある仕様であるか

目標・指標	館職員全員による検討
実績・内容	<input type="checkbox"/> 醤油は俗に「むらさき」ともいうので, 紫色を基調とした色彩にした。 <input type="checkbox"/> 「下総国醤油製造之図」を採用し, 醤油醸造の様子を強く印象付けた。

C. タイムリーな情報提供について計画性をもって適切な部署に行っているか

目標・指標	配布計画策定
実績・内容	<input type="checkbox"/> 図書館, 公民館, 学校, 教育委員会, 博物館をはじめ, 道の駅や商工会などに配布した。 <input type="checkbox"/> 特に, 当館を中心として半径25km圏内の教育委員会や公民館へ重点的に配布した。 <input type="checkbox"/> 醤油醸造関係者へ配布した。

D. 新たな広報媒体や広報手段の開発を積極的に行っているか

目標・指標	近隣の公民館や図書館への広域広報
実績・内容	<input type="checkbox"/> 埼玉, 茨城など近隣の公民館・図書館にポスターとチラシを直接持参した。 <input type="checkbox"/> 特に, 江戸時代に醤油造りが始まった茨城県土浦市へもポスターとチラシを配布した。 <input type="checkbox"/> 内覧会の案内状を報道機関に送付し, 新聞社1社, ケーブルテレビ2社が取材に来た。



## 重点事業評価シート(評価結果と対応)

段階評価	4.0
所見 指摘事項	○立地の上からも、千葉県の博物館ということに拘束されず、埼玉・茨城などを含めた地域の特性ある博物館として広報し、このよ うな地域からの来館者増にも目を向けてゆきたい。 ・しおり等努力されている。 ・県域を超えて利根川流域の地域まで広報活動をしていることは評価できる。
対応	○今後も、館の立地を活かして千葉県ばかりでなく、近隣県の茨城や埼玉などの関係機関と連携し、入場者増につなげていき たい。

総合評価	4.0	現状のままで事業を遂行して良い
評価内容	○少人数での運営の中、館の使命を果たす好企画であった。 ○展示物をさらに入場者に理解させるためにも、中央博物館を始め、県内各館が持つ優れた展示のノウハウを注入する仕組みの 構築が必要と思われる。	
対応	○展示において、展示パネルやキャプションなどの製作に関しては入場者が分かりやすいように工夫を凝らしてきた。しかし、展示 方法となると個人的判断に任せていた感がある。展示のノウハウを習得する意味においても県内各館の展示会を視察し、より良 い展示を目指していきたい。	

## 房総のむら

## 事業名：ミュージアムショップ 売店の売り場レイアウト改善及び取り扱い商品の開発等について

評価項目	3.施設・設備 ①.施設設備の維持・管理
項目概要	○売店のレイアウトは、効率的か。商品について、来館者のニーズを把握し、それに沿った商品を取り扱っているか。 ○更に、商品の質、数、料金、管理、迅速さ、接客などが適当であるか。

## ① スペースの有効利用

## A.限られたスペース・館内での配置の中で、効率的なレイアウト・ディスプレイがなされているか。

目標・指標	出来る限りの工夫がなされている
実績・内容	壁際の陳列棚では、高額商品を大人の目線位置に置き、子供向けの商品を低い位置に置いてそれぞれの注目を惹くよう配置した。栄町の特産物コーナーを新設し、栄町ひとまち倶楽部提供の木製ワゴンを設置し商品をディスプレイした。

## B.当館の使命について目的意識を持った商品構成となっているか。

目標・指標	入館者の動線に考慮した配置になっている
実績・内容	総屋内における売店の位置関係から入り口が狭いので、売店中央部に空間を確保し自由に立ち回れるように動線を確保した。

段階評価	2.0
所見 指摘事項	○中央空間を確保したことで人の出入りが自由になったのが良かった。陳列什器がすべて古いせいか、さまざまな工夫を施していてもどうしても野暮ったく見えた。とくにカウンターとして使用しているガラスケースは、商品陳列に向かない。特に食品を陳列するには向かないと感じた。また、ポップも角がつぶれるなど長年使用している痕跡がみられ、それだけでの清潔感に欠けて見えた。展示のキャプションではないので、もう少し楽しさをアピールできるポップにした方が購買意欲もわくのでは。値札のゆがみ、ポップのはがれなどがみられた。日中にはポップのゆがみなどこまめにスタッフがチェックする体制をとるほうが良いのではないかと。追加資料の動画で、分科会以後どのように陳列方法を変えたのかを確認することはできなかったが、関心を持つ子供の様子は確認できた。 ○ミュージアムショップの設置場所も含めて、全面的なリニューアルができないため、空間的な課題が大きい中、改善に努めている点は評価したい。しかし、さらに改善できる余地があると思われる。例えば、以下のような策が考えられる、 ・ショップへの動線は総屋の入口から考える ・ディスプレイ什器を徐々に入れ換えている ・絵はがきは回転式ラックで選びやすくする等々
対応	商品陳列用のポップ用紙やとりつけ具などを購入し、すべてを一新し、統一感を演出した。 スペースの制約から新たな什器を導入することが難しいので、今後は古い什器の更新から計画的に進める予定である。

## ② 取り扱い商品の内容

## A. 当館の使命について目的意識を持った商品構成となっているか。

目標・指標	適切である
実績・内容	房総の伝統技術によって作られた商品を中心に販売。また今年から栄町の特産品コーナーを設け、地域づくりにも貢献している。

## B. 来館者のニーズを把握して、それに沿った商品構成となっているか。

目標・指標	適切である
実績・内容	今年度は新たに手ぬぐいタオル、がま口、千葉半立ちおにがらやきを導入した。小学生がおみやげとして購入できるよう 300 円以下の低価格の商品も置いている。

## C. 新しい商品の開発に取り組んでいるか。

目標・指標	積極的に取り組んでいる
実績・内容	11 月にお披露目する新キャラクターをモチーフにした商品を開発している。

段階評価	2.5
所見 指摘事項	○新キャラクター開発、発表の経緯についてはあらゆる方面への心配りにより開発された経緯が分かった。大学へ依頼したキャラクター開発は、博学連携、地域活性化、生涯学習という観点からも、もっと広報要素としてアピールしてもよい。キャラクター発表と、関連商品の販売に日数が開かなかつたこともよかった。今後も継続する関連商品の開発を期待したい。 ○商品について、体験や古い文化の学習という意味合いの強い子供向けの商品がもう少しあってもよいと感じた。遠足で訪れる子供たちの関心を引くことも重要だが、親が博物館でしか買えない子供向けのものを見つけることのできるショップにもしていくことも考慮してほしい。また、房総の伝統技術で作られた商品を中心とすると展開できる商品に限界があるため、むらで扱う時代や文化に関連する商品を展開する、という方針でも十分館の役割を果たすものとなる。風土記の丘資料館に関連するグッズがあってもよいのではないかと。 ○房総のむらにおけるショップの基本方針(伝統技術の紹介・継承)から逸脱しないようにしつつ、新たな商品開発や新キャラクター(ぼうじろう)の開発に努めている点は評価できる。しかし、商品が地味で魅力に欠ける面も否めない。江戸東京博物館やたてもの園の商品開発を参考にしつつ、自館の資源を生かし、さらにデザイン面でも優れたものを開発してほしい。お客様の様子を録画して動画を見ると、滞留時間は比較的長いお客様もいるが、購入につながっていない場合も多いように思われる。お客様の現状分析やニーズの把握に努めることも重要と思う。
対応	商品陳列用のポップ用紙やとりつけ具などを購入し、すべてを一新し、統一感を演出した。 スペースの制約から新たな什器を導入することが難しいので、今後は古い什器の更新から計画的に進める予定である。

## ③ 販売システム

## A. 商品の入荷はスムーズに行われているか。

目標・指標	行われている
実績・内容	在庫数量は日々確認しているので、欠品にならないよう発注をしている。

## B. 在庫の管理は遺漏なく行われているか。

目標・指標	行われている
実績・内容	毎月末に棚卸しをして在庫を確認している。

## C. 販売窓口の流れは効率的に行われているか。

目標・指標	行われている
実績・内容	バーコード読み取り式のレジスターを使用しているので金額の打ち間違いなどのミスはなくなり、処理時間も短縮した。

## D. 販売窓口の接客対応は適切に行われているか。

目標・指標	行われている
実績・内容	接客態度については、常に注意するようこころがけ、クレーム等問題があった場合は業務終了時の打ち合わせで報告し、改善するよう日々向上に努めている。

段階評価	3.5
所見 指摘事項	○取り扱っている商品に遺漏がないことは実感できたが、販売アイテム数が少ないせいか、棚がさびしく感じた。接客対応は改善努力を行っている形跡も見られ、顧客に対する気遣いも感じられ、好感が持てた。
対応	接客態度については、現在も日々反省点を全員で確認し改善に努めている。 販売にあたっては、バーコードシールを商品に貼ることで、誤入力を防止するだけでなく、迅速化をはかることができた。

## ④ 改善の成果(途中経過)

## A. 売上額に反映されているか。

目標・指標	昨年度の同時期売上額比の増額
実績・内容	7月中旬に模様替えを実施したので、昨年同月比で8月は、約11万円増、9月は、約6万円の売り上げ増であった。

段階評価	2.5
所見 指摘事項	・模様替えを行った結果が売り上げに反映されたことは大変評価できる。模様替えそのものにはまだ行う余地があるように感じられた。 ・成果として、お客様の満足度も重要。さらに動線の改善によってショップへの入店数が増えたかの定量的な指標も必要と思われる。
対応	10月と1月は昨年同月と比べ売り上げが落ちたものの、他の月はすべて増加した。

総合評価	2.5	・部分的に検討する必要がある
評価内容	○本来ショップではないスペースを十分に有効活用しつつショップ経営がなされていると感じた。模様替えを行ったのちもどうしても野暮ったさはぬぐえず、購買意欲はあまり起きなかったのが正直な感想である。ミュージアムショップ、という役割は果たし切っていないと感じた。県下工芸品に限定せず、縄文から古墳、江戸・明治時代に関連する商品であればOKくらいの広いスタンスで商品を展開してもよいのではないかと感じた。新しい施設としてミュージアムショップを設置することを期待する。 ○空間配置や面積、ケースの什器等、ハード面での限界があるため、十分な改善を行うことができないのが大変残念に思う。現時点では、現場のがんばりで改善を行い、ある程度の成果は出ているが、これ以上は、県が介入し、ハードの改善が必要と強く思う。また、指定管理制度を導入した時点で、房総のむらにおけるショップの位置づけを見直す必要があったのではなかろうか。大きな売上やお客様の満足度も高め、さらにリピーター拡充にも期待できるミュージアムショップであるからこそ、中長期的な展望での見直しを、ぜひ来年度行ってほしい。	
対応	施設の拡充や新設については、今後も県教育委員会に対して要求をしていく。同時に、商品の見直しや陳列方法への工夫については、随時できることを行っていく。	

房総のむら

事業名：「ふるさとまつり」～地域連携を軸に～

評価項目	8教育普及事業 ④イベント 10 県民参画 ②NPO・外部機関との連携・調査
項目概要	外部機関・団体と協働して、地域の活性化につながる事業を展開しているか

① 事業の基本的な考え方と実施

A. 事業の目的は、館の使命に即しているか。

目標・指標	即している
実績・内容	伝統的技術を持った職人による実演や体験、また大道芸など伝統芸能の上演をおして、伝統文化の理解を進めている。

B. 地域及び各団体が館に対して求めているものと、館が目指すものとのすりあわせが行われているか。

目標・指標	十分に行われている
実績・内容	房総のむらを資源として、友の会、栄町、成田市、栄町観光協会等が地域振興・地域活性を求めているが、協議を重ねて、各地に伝わる伝統的な技術、芸能の披露等、房総のむらの使命に即したものをやっている。

段階評価	3.5
所見 指摘事項	○長い歴史を持つイベントでもあり、その使命が十分に体现されているイベントだった。村としての特色もよく示されていた。蛇足ながら共催をうたう栄町の施設であるドラムの里と、むらでのイベントの色合いが異なることに少なからず違和感を感じた。里のイベントとしてはむらとの共催という色合いはあまり感じられなかった。 ○房総のむらの特徴を生かし、「ふるさとまつり」の拠点施設として事業を行っている点は評価したい。
対応	○もともと栄町側と当館の別個のイベントを合併したまつりであるため、それぞれの目的や方向性に相違があることは否めない。しかし、当館としての使命を見失うことなく、連携団体に理解を求める努力を続ける

② 事業の内容とプログラム

A. 事業の内容は、目的に即しており、効果が期待できるものとなっているか。

目標・指標	適切である
実績・内容	ただ単に、伝統技術や伝統芸能を上演するだけではなく、解説や手軽にできる体験も行き、来館者が興味を持てる内容となっている。

B. 事業内容について、館内各部署での調整は十分に図られているか。

目標・指標	十分に行われている
実績・内容	事前に内容伝達の研修会を行い、館内各部署に周知徹底している。

C. プログラムは、無理なく設定されているか。

目標・指標	無理なく設定されている
実績・内容	事前準備、片付けも含めて、事故等ないように、無理なく設定している。

D. 事業に必要な人員が確保できているか。

目標・指標	確保できている
実績・内容	事前に各部署で、必要人員の希望調査を行い、不足分は、お互いでフォローし、必要な人員が確保できるようにしている。

段階評価	4.0
所見 指摘事項	○長年の経験から、細かいスケジュールなどが良く練られている印象を受けた。餅まきのやり方を毎年工夫するなど、来館者に気持ち良く過ごしてもらうための工夫を行っている様子もうかがえた。基本は一日限りのお祭りであることは承知できるが、例えば、連続講座の一回目や、連続公演の初日をこの日に設定するなどして、リピーターを増やすためのプログラムがあってもよいのではないかと感じた。 ○多彩なプログラムを提供し、むらの魅力を十分にアピールできていると思う。また、過去の経験から安全に実施できる方法や、お客様に満足してもらえる内容に修正・改善している点は、評価したい。
対応	○1回限りのイベントに終わらせず、これをきっかけに房総のむらの施設や各種事業への興味を持続してもらえるようなプログラムを工夫していきたい。

③ 協議と準備

A. 他団体との話し合いは十分に行われ、相互の意志の疎通が出来ているか。

目標・指標	十分に行われている
実績・内容	栄町、観光協会など、連携する各団体と協議を重ねるとともに、参加団体代表が一同に集まる会議を実施し、共通共通理解や意志の疎通をはかっている。

B. 事業の広報活動は十分に行われているか。

目標・指標	十分に行われている
実績・内容	事業の概要については、館報にて関係諸機関に広報し、ホームページや各地域の広報紙等にも掲載している。 本事業は 36 年目の事業で、入館料無料かつ餅まきなどが恒例化していることもあり、既に地元住民に十分定着していて、毎年多くの来館者があることから、チラシ作成・配付はあえて行っていない。

段階評価	3.5
所見 指摘事項	○他団体との意思の疎通については、上記のことからもあまり実感することができなかった。安定した事業であり、今年度の来館者数を考えるならば、このイベントの告知を遠方に絞って行く、という判断はうなずける。 ○地元である栄町の町民(町長、役所も含めて)には、房総のむらの意義や使命をさらに理解してもらい、協働体制を取っていくことが必要と思われた。
対応	○連携団体とは、今後も継続して協議・協働作業を通して、当館の趣旨を説明し、相互の目的達成のために協力できる部分を明確にしていきたい。

## ④ 事業の成果

## A. 参加団体の満足度はどうか

目標・指標	来年以降も継続の意志が確認できる
実績・内容	栄町の芸術団体、匝瑳市の郷土芸能団体等から、多くの来館者の前で披露することが出来てよかったとの声が聞かれ、来年度以降も継続の意志が確認できた。栄町には、房総のむらの理念・コンセプト等を再確認してもらった上で、協働してよりよいイベントを作っていきたい。

## B. 入場者数は目標に達しているか

目標・指標	晴天時の目標値:18,000 人/日
実績・内容	当日の天候:晴天 入館者数 21,375 人/日

## C. 当日入場者の反応はどうか

目標・指標	終了後利用者ブログ等に好意的掲載5件以上、不評掲載ゼロ
実績・内容	7件のブログを確認できた。いずれも、好意的にイベントの紹介と来館の感想を綴っており、これに関するコメントも、「自分も行ってみたい」というものが多かった。不評の記事は特に見あたらなかった。

段階評価	4.0
所見 指摘事項	○記入式や口頭のアンケートを来館者に実施せず、インターネット上で感想を収集するのであれば、媒体の変化などにも柔軟に対応する必要性を感じた。(たとえばブログ検索だけではなく、twitterの検索など必要なのではないかと感じた。 ○1日に2万人を越える入場者を迎え入れるイベントを実施できる実力のある団体・機関・施設であると思う。今後、大学等と連携して、入場者の満足度調査も実施し、成果指標としてほしい。
対応	○ブログ検索による館への世評調査と職員間での回覧は毎日行っており、有効性が認められる。これに加えて、今後は twitter の検索なども加え、よりリアルな来館者の反応を常に受信できる体制を整える。 ○また、大学等との連携による満足度調査についても、今後の課題としたい。

総合評価	3.8	・部分的に検討する必要がある
評価内容	○何より来館者の生き生きとした様子を見ることができた貴重な体験だった。ただ、一日限りの祭りの中にリピーターを増やすための演出を今後していく必要性も感じた。 ○大規模なイベントを安全にかつ多彩なプログラムを提供できることはすばらしいことだと思う。今後も継続してほしいイベントではあるが、いくつかの課題があると思う。ふるさとまつりのメインイベントが餅撒きでもよいが、房総のむらの意義や使命を周知させることができるむらのメインイベントは何かをはっきりさせていくことが必要だと思う。県民、特に栄町の町民には、房総のむらを単なる餅撒き会場だと思ってもらいたくない。千葉県としての使命をPRできる機会として活用してほしい。	
対応	○せっかくの集客の機会を活用し、本館の目指す伝統文化の継承と地域の活性化を両立させるためのメインプログラムを開発していく。	